

# 「地球」のためにできること



今年二月、地球温暖化

の防止を目的とした京都議定書が

発効はつこうしました。また、「愛・地球博」も

開催かんかいされ、環境かんげいに対する関心も高まっています。

環境問題は、自分たちの生活と

遠く離れた問題ではありません。極めて

近い、身近な一人ひとりの問題です。今

月は、私たちにできる取り組みを

考えます。



## 環境問題とは

「ああ、恵めぐみの雨だ」

会社員の川野慎吾かわのしんごさん（40歳）は、思わずつぶやきました。

八月のある日曜日、自宅の居間いままから外を見ると、乾かわいた土が黒くなっていくさまが見えます。激はげしい夕立ゆうだちで辺りうすぐらは薄暗くなつていきましました。

「久しぶりのうるおいだ。草木も喜んで  
いるだろう」

と、川野さんはうれしそうです。

「本降ほんぶりになってきたわ」

と言いながら、妻のふみ子さん（36歳）が、あわただしく買いた物から帰ってきました。

「どうしたの？ 灯りもつけずに」

「省エネさ」

川野さんは、一人でいるときはなるべく電灯やクーラーを使わないようにしています。また、外出するときには、自家用車の使用をひかえて、できる限り公共の交通機関を利用するように努めています。自分でできる方法で環境問題の解決に取り組んでいるのです。

川野さんがこの問題に関心を持ったのは、自宅近くの山林に有害廃棄物が不法投棄されたことをニュースで知ったのがきっかけでした。豊かな樹木に囲まれて、自然の形をそのまま残した山がひどく汚



されたことに強い衝撃を受けました。そのことがあって、川野さんは環境問題について自分なりに調べてみました。すると、言葉は知っているものの、その内容については、ほとんど理解していなかったことを知ったのでした。

# 微妙なバランスを 保っている自然

環境問題とは、地球的な規模での環境

球温暖化です。

破壊のことを言います。具体的には、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、森林消失、洪水や砂漠化、土壌や水質の汚染、有害廃棄物など、さまざまな問題があります。

太陽光線は大気を通過して、海や陸を暖めます。地球は常に太陽からのエネルギーを受け取っていますから、地表の温度は上がり続けることになりました。

環境問題の中で、最もクローズアップされているのが、大気中の二酸化炭素の増加による地

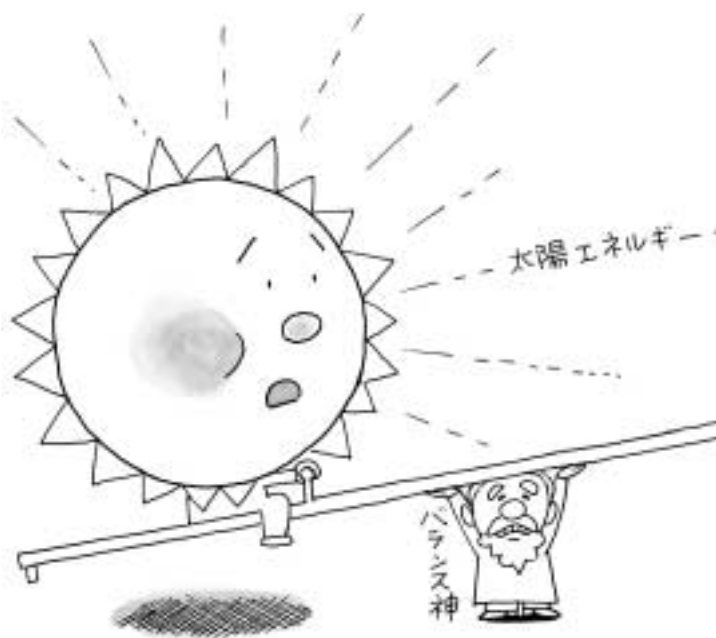


しかし、地球は、太陽からのエネルギーの量とほぼ同じ量のエネルギーを赤外線として宇宙空間に放出して

いるため、熱の収支バランスがとれて、ある一定の温度を保っているのです。その放出される赤外線の一部は、大気中の二酸化炭素に吸収されて、再び地表を温室のように暖めます。この

現象を温室効果と言います。つまり、大気中の二酸化炭素が増えれば、それに吸収される赤外線の量が増え、地球は温く

なります。こうした大自然の微妙な**びみょう**バランスのおかげで、私たちは生きていけると言えます。



なります。温室効果によって、地表は平均十五度前後の温度を保つことができます。もしも二酸化炭素が全く存在しなければ、地表はマインス十八度になると言われます。

# 地球温暖化の元凶は 私たち人間です

何万年もの間、こうした適正な量を保っていた大気中の二酸化炭素が、この二百年間で三十パーセントも増加しました。その主な原因は、われわれ人間が生産活動のために化石燃料（石油、石炭、天然ガス）を地中から掘り出し、燃

焼させ、そのとき排出された二酸化炭素の量が大気中の一定範囲内の値を崩したことにあります。

そして、現在の状況を放置しておく  
と、さらに平均気温が上がり、世界各地で砂漠化や洪水の発生が増えるだろうと考えられています。

むろん、これらは必ず起きるとは限りません。大きな変化は起きないとする学者もいますが、反対に、より大きな被害を招く可能性もあるのです。

地球温暖化の元凶は私たち人間である  
と言えるのです。



# エネルギーを使えば 二酸化炭素を 排出する

慎吾さんは、このような内容のことを分かりやすくふみ子さんに話しました。

「空気中の二酸化炭素が増えることつて、大変な影響があるのね」

ふみ子さんも、地球温暖化という言葉は知っていましたが、慎吾さんから話を聞き、あらためて驚いたようすです。

「あなたの話はよく分かったけれど、でも、私たちはどうすればいいの？」

「それは一人ひとりが二酸化炭素を出す





のを減らすような生活を心がけることだよ。まずは節電や節水といった省エネからね」

と慎吾さんが答えると、すぐにふみ子さんが言葉を返しました。

「私も普段から節電や節水には気をつけているつもりだけど、私たちの家庭だけではその効果もしているんじゃないかしら」

「そうなんだ。僕たちは、ついそう思つて、結局、何もしないでいることが多いんじゃないかな。でも、〃私一人ぐらいが実行しても……〃という考え自体が大きな間違いだと思うんだ。

というのね、環境問題の重要性が強く叫ばれているけれども、家庭からの二酸化炭素の排出は年々増えているんだ」



慎吾さんは、そう言って説明を続けました。

ここ数年、日本では国や自治体、企業などから排出される二酸化炭素の量は減少しています。ところが、家庭から出る二酸化炭素の量は増えているのです。これは自家用車や家電製品の大型化、新しく登場した電気製品の普及などによって、エネルギーをより多く使用する生活になったからです。

家庭の需要電力量は、平成二年度の千四百十・八億キロワットから平成十三年度には千九百三十・七億キロワットへと大幅に増加しました（平成十六年度『環境白書』より）。エネルギーを多く使う生活は、二酸化炭素を多く排出する生活でもあるのです。

## 私たちに できること

「へえー、そうなの。確かに、私たち一人ひとりができることって本当にごくわずかだけれども、逆に言えば、小さなことならだれにでもすぐに実行できるのよね」

「一人の実行でも多くの人が行えば大きな効果を生むということをもっと強く意識しなければならぬと、僕は思うんだよ」

二人は自分たちの日常で、できそうな環境問題への取り組みを挙げてみました。



- ① 買い物はレジ袋でなく自分の袋を利用する。
- ② 食器洗いなどの給湯の温度は低めに設定する。
- ③ 缶、ビンを分別し、リサイクルする。
- ④ エコマークのついた商品を購入する。
- ⑤ 冷暖房の温度設定を夏は二十八度以上、冬は二十度以下にする。

- ⑥ 食材をムダなく使い、省エネを心がけて調理する。
- ⑦ 蛍光灯や電気機器はこまめに消し、使わないときには主電源を切り、コンセントも抜く。
- ⑧ 自家用車でなく、自転車や公共交通機関を使う。
- ⑨ 人を待つときや荷物の積みおろしには、自動車のエンジンを切る。
- ⑩ 洗面や歯磨きをするときなどは、こまめに水を止める。
- ⑪ 三階程度の登り降りはエレベーターを使わず、階段を使う。

(環境省ホームページ参照)

すでに慎吾さん夫妻が取り組んでいるものもありますが、意識をすればもっと多くのことが実行できそうです。

川野さん夫妻の会話を通して、私たちが  
できる環境問題への取り組みについて  
考えてきました。どれも小さな取り組み

かもしれませんが、しかし、これらのこと  
をまず行動に移すことが、大切なことで  
はないでしょうか。

## ハチドリのの訓え

アフリカの植樹活動「グリーンベルト  
運動」の創設者であり、環境分野で初の  
ノーベル平和賞を受賞した、ケニアの副  
環境相ワンガリ・マタイさんが「京都  
議定書」の発効を機会に、今年二月に来  
日し、ある講演会で次のような話をしま  
した。

三十年前、ケニア農村部の貧しい女性  
たちは、水も食べ物も、エネルギーにす  
るまきも不足し、子どもたちを学校に行

かせることもできませんでした。ナイロ  
ビ大学で教鞭を執っていたマタイさ  
んは、専攻する生物学の知識から「土地  
が崩壊しているために、女性たちが苦し  
い思いをしている。もし植林することが  
できれば、土地の浸食を防ぎ、木を売っ  
て現金にすることもできる。まきも取れ  
る」と植林を思い立ったのです。

何もなかった荒れ地が、わずか数年で  
大きく変わりました。木がはえ、美しい

川が流れました。川には魚が泳ぎ、鳥やウサギ、小さな生き物たちが戻ってきました。数人で始まった植林は、今では数万人が参加しています。

マータイさんは、この「グリーンベルト運動」を興した三十年前の自身の姿を、南米エクアドルに伝わるハチドリの話に重ねて次のように語りました。

—— 大きな山火事が起こったとき、ハチドリはその小さなくちばしに水を入れ、なんとか火を消そうとしました。他の動物たちは「こんなに大きな火事なのだから、そんなわずかな水ではどうしようもない。どうせ何もできないんだ」と言いました。でもハチドリは「私は私にできることをしているのです」と答え、水を運び続けました——



マータイさんの植樹活動は、自分自身にできることをしようという思いから生まれたものです。

(平成十七年三月十二日『毎日新聞』参照)

# 「もつたいない」の精神が 環境問題解決の糸口



来日中、マータイさんは新聞記者のインタビューで、「日本語に、もつたいないという言葉があります。どう思えますか」と質問を受けたとき、日本語の「もつたいない」の精神に感動したと次のように話しています。

「『もつたいない』という言葉が非常にわかりやすいと思いました。三つのR、リデュース(廃棄物の抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用)です。ものを作りすぎたり、再利用できるものを捨てたり、再活用することを忘れたりすることを『もつたいない』と表現する、日

本人の知恵に感銘かんめいしました。私はこの言葉の世界に発していきたいと思います」

(平成十七年二月二十八日『毎日新聞』より要約)

マータイさんが「もつたいたい」という言葉に感銘したように、昔から、ものを大切にし、浪費ろうひせずに儉約けんやくする心が日本人の暮らしの中にありました。「もつたいたい」の言葉の中には、自然への畏れおそや感謝の念まで含まれていたのです。

ところが、今の私たちの生活は、まだ使えるものもゴミとして捨ててしまっていることがあります。

平成十三年度のゴミの総排出量は五百二十万トンで、国民一人当たりで一日に約一・一キログラムも出されています。

日本国内におけるゴミ処理は重要な問題です。この問題も一人ひとりの地道な実

行で、大きな効果が期待できるのです。

人間の欲望よくぼうは、とどまるところを知りません。むしろ、ますますエスカレートしているようにさえ思えます。こうした人間の活動が地球の環境問題を起こしているとするれば、その欲望を少しでも抑おさえることが、解決への糸口になるのではないのでしょうか。

日本には「腹八分目に医者いらず」という諺ことわざがあります。それは単に体の病気のことでだけでなく、ものを使うにも控ひかえ目がよいという訓おしえにもつながると思います。また、日本には古くから、子、孫まご、曾孫ひまごの時代を見据みすえて植林を行ってきました。ものを大切にし、資源を大切にすることが、持続可能な再利用の道を拓ひらいていくのではないのでしょうか。

# 「地球」という恩恵に感謝する

地球温暖化による気温の上昇や、降水量の変化などによって、生態系も影響を受けます。しかし目に見える変化は、数年、数十年、数百年後に起こります。現在生きている私たちが、うっかりしていると、子どもや孫の時代に重大な結果をもたらすこととなります。

私たちを取り巻く自然環境は、物質を循環させることで絶妙なバランスを保ってきました。私たちは、これまで享受してきた自然からの恩恵を感じて、地球という限られた資源の中で



生かされて生きていること  
に対する深い「感謝の心」  
が必要です。そして、その  
心を具体的な形に表すため  
に、たとえ小さな行いであっても、私た  
ちは自分にできる取り組みを続けていく  
ことが、環境問題解決への第一歩となる  
のではないのでしょうか。